

日本の正しい読み方は「ニホン」それとも「ニッポン」?

日本の国道の起点は東京の日本橋（にほんばし）、西の大阪には電気の街として知られる日本橋（にっぽんばし）がある。

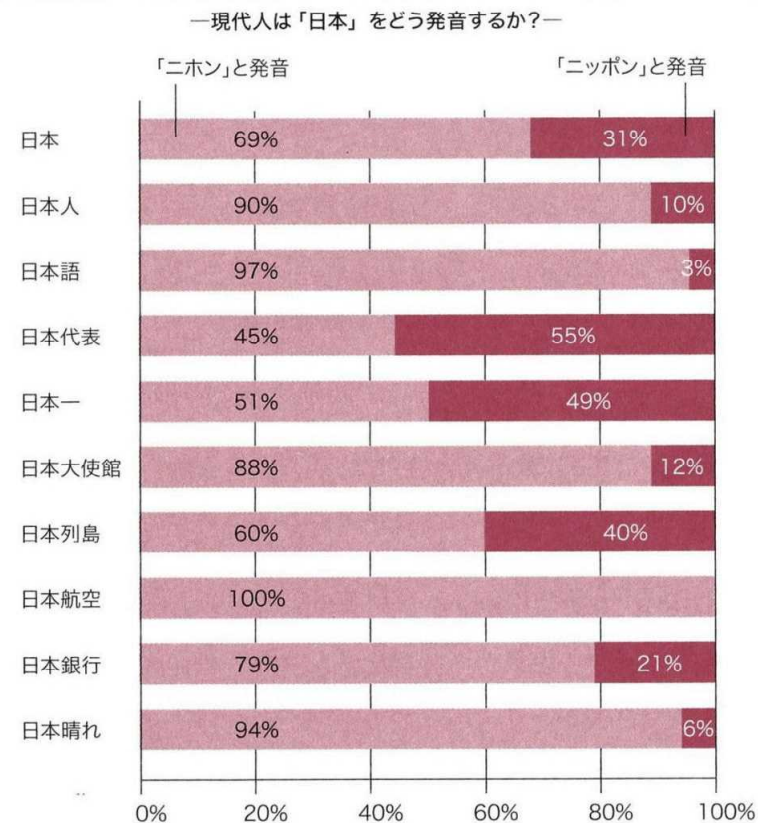
「日本」の起源は？

歴史の教科書では、飛鳥時代以前の日本は「倭」や「^{やまと}大和^わ国家」として登場する。わが国が「日本」という呼称を使うようになったのは、律令政治が整いはじめた7世紀頃と考えられているが、その起源や由来については、いまだ不明な点が多く、明確な結論は出ていない。

「日本」という言葉が、教科書のなかで最初に登場するのは720（養老4）年の『**日本書紀**』である。ただ、私たちはこれを「にほんしょき」と読むが、本来は「^{やまと}よみ」が正しい。同時代の『古事記』には、ヤマタノオロチを退治する日本武尊が登場するが、この場合の読み方も「^{やまと}たけるのみこと」である。当時、「日本」はニホンともニッポンとも発音されず、「やまと」や「ひのもと」と訓読みされていた。漢字で書く「日本」の由来として「やまと」の枕詞（まくらことば）だったとする説が興味深い。「飛ぶ鳥の明日香（あすか）から枕詞の飛鳥を「あすか」と読むようになったように、「日の本のやまと」から転化したという説である。

平安時代に入ると、「日本」を音読みで発音するようになる。ただ、「日」という漢字の音は「にち」であり、「に」という読み方はなく、当時の発音は「**ニッポン**」であったと思われる。言

日本を「ニホン」「ニッポン」と発音する比率



〈資料：テレビ朝日HP「日本語研究室」〉



「日本橋（にほんばし）」駅（東京）



「日本橋（にっぽんばし）」駅（大阪）

語学者の研究によれば、「はひふへほ」は古代には PA PI PU PE PO に近い発音だったそうだ。その P 音が次第に F 音、そして H 音に変化し、それにつれてニッポン→ニフォン→「ニホン」と発音が変わっていったと考えられる。室町時代以降は「ニホン」と「ニッポン」の両方の呼称が使われるようになった。

現代人は「日本」をどのように発音する？

—「日本」の読み方は「ニホン」と「ニッポン」。ホントはどちらが正しいのでしょうか？—

新聞社や放送局、教科書会社には、このような問い合わせがけっこう多いそうだ。現代人は、日本をどのように呼んでいるのだろうか。2006（平成 18）年、ある放送局が 20～80 歳代の男女を対象に、「日本」を含む言葉をどのように発音するのかという調査を実施した。この結果から、現代の人々は「ニッポン」よりソフトなイメージの「ニホン」を好んで使っていることがわかった。この傾向は中高年の人よりも若い人にとくに顕著だという。

ただ、**日本航空**を 100%の人が「ニホンコウクウ」と答えたが、正式社名は「ニッポンコウクウ」だ。会社四季報にもそのように記載されている。「ニッポンコウクウ」と答えた人がいなかったのは、テレビニュースなどでアナウンサーが「ニホンコウクウ」と発音しているからだだろう。これは、日本航空側が報道機関に以前からそのように依頼しているためだそうだが、残念ながらその理由は不明とのことだ。

日本銀行も「ニッポンギンコウ」が正しい。1万円札のウラにも「NIPPON GINKO」の文字がある。しかし、日本銀行に電話

「ニホン」と「ニッポン」の読み方の事例

「ニホン」と発音する語

日本画	日本海	日本海溝
日本海流	日本髪	日本酒
日本脳炎	日本風	日本間
日本料理	日本橋（東京）	日本大学
日本棋院	日本経済新聞	日本共産党
日本教職員組合	日本自動車工業会	日本医師会
日本育英会	日本山岳会	日本テレビ
日本相撲協会	日本生命	日本レコード大賞
全日本実業団駅伝	JR 東日本	NEXCO 中日本

など

「ニッポン」と発音する語

大日本帝国	日本橋（大阪）	日本維新の会
日本体育大学	日本放送協会	日本記者クラブ
日本遺族会	日本中央競馬会	日本ダービー
全日本空輸	新日本製鐵	近畿日本鉄道

など

「ニッポン」と発音するが、「ニホン」の発音も許容する語

日本銀行	日本オリンピック委員会	日本赤十字社
------	-------------	--------

など

「ニホン」「ニッポン」のどちらの発音でもよい語

日本一	日本記録	日本語	日本三景
日本時間	日本製	日本男子	日本刀
日本晴れ			

など

〈資料：『NHK 放送ことばハンドブック』、HP「日本の読み方」〉

をするとオペレーターは「ニホンギンコウです」と応答するという。日銀のホームページには、「ニッポンギンコウ」と呼ぶようにしているが、日本の国名の問題に似て、二者択一的に決めるのは難しいというような主旨の記載がある。

政府の見解はどのようになっているのだろうか。戦前の国威発揚が叫ばれた1934(昭和9)年、力強さのイメージがあるという理由から文部省臨時国語調査会が「ニッポン」を統一呼称とするよう決議した。ただ、このときは法制化には至っていない。札幌オリンピックを控えた1970(昭和45)年にも、閣議で「ニッポン」に国号を統一することが話題になったが、このときもそれ以上の進展はなかった。2009(平成21)年には、国会で民主党のある議員が、「日本」の読み方を「ニホン」か「ニッポン」に統一する意向はあるのかと政府に質問書を提出した。当時の麻生内閣は「いずれも広く通用しており、どちらか一方に統一する必要はない」という答弁をしている。

オリンピックや震災復興支援などは、「がんばれニッポン」というように力強い語感の「ニッポン」がよいが、谷村新司の名曲『いい日旅立ち』の歌詞「あ〜あ〜ニホンのどこかで〜」のフレーズが「ニッポン」では様にならないというようなつぶやきを、以前、どなたかのブログで読ませていただいたことがある。まさに同感だ。日本人は2つの呼称を1000年以上もそれぞれに思いを込めて使い続けてきたのだから…

ワンポイント 知識

日本は外国からどう呼ばれている？

13世紀に、イタリアの商人マルコ・ポーロがその著書『東方見聞録』の中で日本を Zipangu (ジパング) と紹介したことは知られている。このジパングの語源は何だろうか。現在の中国では、日本を「リーベン」と発音するが、マルコポーロが訪れた元朝の頃は「ジッパン」と発音していたらしい。「日」の音読みには「ニチ」と「ジツ」があるが、中国北部の発音は「ジツ」である。Zipangu の「Zi」が「日」、「pan」が「本」、「gu」が「国」に相当する。ジパングは、「日本国」の当時の中国語読みが由来なのだ。ただ、Ping-Pong(ピンポン)のように、ヨーロッパでは末尾の「G」をはっきり発音しない。やがて、ジパングの「G」が消滅し、英語の Japan (ジャパン) やスペイン語の Japon (ハボン) に変化していったと考えられる。

おもな言語における日本の呼称

中国語	日本	(リーベン)
モンゴル語	Япон	(ヤボン)
韓国語	일본	(イルボン)
インドネシア語	Jepang	(ジュバング)
タイ語	ญี่ปุ่น	(イーブン)
ベトナム語	Nhat Ban	(ニャバン)
ヒンディー語	जापान	(ジャーバーン)
ロシア語	ЯПОНИЯ	(ヤポーニャ)
フランス語	Japon	(ジャポン)
イタリア語	Giappone	(ジャッポーネ)
ドイツ語	Japan	(ヤーパン)
トルコ語	Japonya	(ジャポンヤ)
スワヒリ語	Japani	(ジャパニ)
アラビア語	اليابان	(アル ヤーバーン)

和牛と 国産牛の違い

アメリカ生まれでも国産牛と呼んでもよってホント？

今、オーストラリアで和牛がブームになっている。シドニーのレストランでは「WAGYU」と表示された300gの霜降り肉のステーキが25ドル（2,300円）ほど。通常のオーギービーフよりはかなり割高だが、それでもグルメの人気を集めているという。

和牛とは日本の在来種を食肉用に改良した牛のことである。松阪牛や近江牛として生産される黒毛和種の但馬牛はその代表である。つまり和牛とは牛の品種を表した言葉で、産地が日本という意味ではない。オーストラリアでは、1990年代に日本からアメリカを経由して和牛が輸入され、90年代末には本格的な肥育が始まった。現在では数百の牧場で13万頭の和牛が飼育されている。

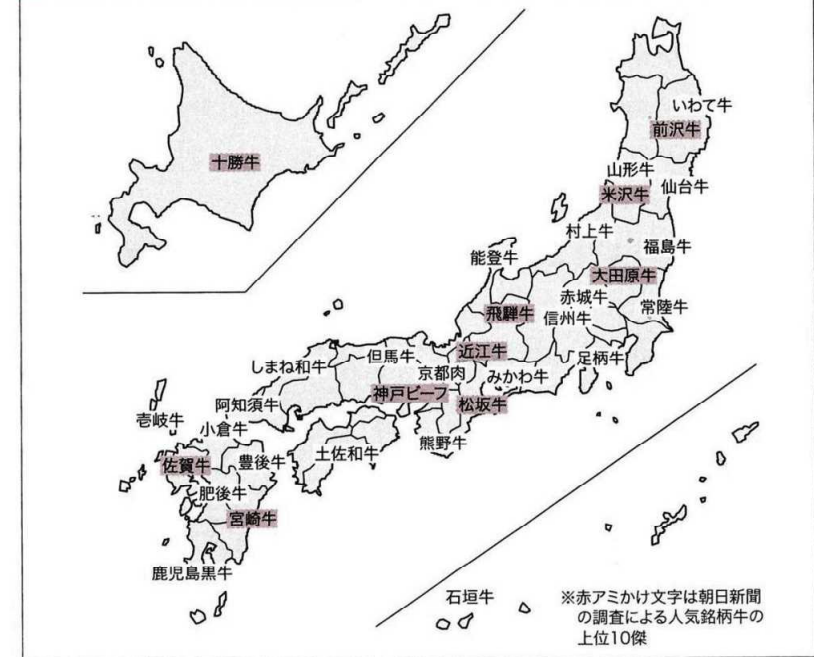
オーストラリア産の和牛は、海外へも輸出されており、シンガポールやホンコンでは富裕層を中心に需要が増えている。もちろん日本へも輸出されている。しかし、日本人の素朴な感覚ではオーストラリア生まれでオーストラリア育ちの和牛というのは違和感がある。2007年、農水省は流通上の混乱を避けるため、「和牛」として販売する際には、国内で出生し、国内で飼育された牛でなければならないという要件を定めた。したがって、たとえ同じ品種であっても、日本国内では外国産の和牛を「和牛」と表示して販売することはできず、その場合は輸入牛という分類になる。

国産牛とは、国内で出生し、国内で飼育された牛、または日本

国内で3か月以上飼育された牛をいう。つまり、アメリカであれ、オーストラリアであれ、どこで生まれようと、またどんな品種の牛であろうと、とにかく日本国内で3か月以上飼育すれば国産牛なのだ。実際、スーパーで国産牛と表示され安く販売されているのは、和牛ではなく、ほとんどは乳用ホルスタイン種である。搾乳できなくなった老牛や雄牛などが肉牛として利用されているのである。

近年は空前のブランド牛ブームで、銘柄牛やブランド牛と呼ばれているものは、今や東京を除く全国46都道府県にあり、その数は200を超えるという。

全国のおもな銘柄牛



15 府と 県の違い

京都と大阪だけを、なぜ県ではなく府と呼ぶのだろうか。学校でも教師を困らせる質問だ。現在では地方自治の行政機関としての府と県の権能には何ら差異はない。しかし、本来、府と県は意味が異なり、成立過程も違う。

まず意味だが、**府**という言葉には「太宰府」「幕府」「政府」などのように行政機関の中心という意味があり、**県**という言葉は古代中国の春秋時代から続く地方行政区画の制度に由来する。

江戸幕府は、直轄領（天領）のうち、長崎など重要な16か所に遠国奉行^{おんこくぶぎょう}を配置していたが、1868（明治元）年、明治政府はこれを廃して、東京・京都・大阪・長崎・度会^{わたらい}（現伊勢市）・奈良・新潟・箱館・神奈川の9か所に新たな支配機関として府を設置した。しかし、翌年には、府の呼称は京都・大阪・東京の3都市のみとし、他は県に改称される。天皇が住んでいた**京都**、経済の中心**大阪**、行政の中心**東京**の江戸時代には三都と呼ばれていた3都市を新政府も重視したのである。

そして1871（明治4）年、中央集権国家の確立のため、**廃藩置県**を実施し、開拓史が置かれていた北海道を除く3府72県（当初は302県）の府県制が発足した。

その後、東京は第二次世界大戦中の1943年に首都機能の強化のために都制へ移行した。なお、1882（明治15）年には、一時期だが北海道にも函館・札幌・根室の3県が設置されことがある。

16 まち（町）と むら（村）の違い

ここでは地方自治体としての町や村ではなく、集落としての「まち（町）」と「むら（村）」の違いについて解説する。

人口の多いのが町、少ないのが村、人口の多少が町と村の違いだと思っている人が多いのではないだろうか。一概に間違いと断定はできないが、町と村には実はもっと明確な違いがある。

集落を意味する言葉に、「町」という漢字を含むものとして、**城下町・門前町・宿場町・港町**などがあり、「村」を含む言葉として、**農村・漁村・山村**などがある。しかし、これらの言葉の町を村、村を町へ置き換えることはできない。どんなに人口が少なくても宿場町であって宿場村ではなく、農町や漁町という言葉もない。

農林業つまり第1次産業を基幹とする集落が**むら（村）**、鉱工業や商業など第2次・第3次産業を基幹とする集落が**まち（町）**である。第1次産業を営むには、田畑にしろ、漁場にしろ、ある一定の広さが必要だが、第2次・第3次産業は土地の制約をほとんど受けずに成立し、限られた面積で多くの住民の生活を可能にする。また、第1次産業はどんなに人口が少なくても成立するが、第2次・第3次産業はある程度の人口の集中がなければ成立が難しい。その結果として、村よりも町の人口が多くなるわけである。

ちなみに、「まち」には**街**^{まち}という漢字もあるが、街は、町の中の家屋の密集した一区画を指す。商店街、飲食街、住宅街、街路樹、街灯などの使い方をし、英語でいえばstreetのようなものだ。

4

天気・天候・気候 の違い

天気は理科の授業で、気候は社会科の授業で習ったと思うけど…

天気・天候・気候

「北海道はどのような□□ですか？」

□□に当てはまるのは天気・天候・気候のうちどれが適切だろうか？ この設問ならばどの言葉をあてはめても正解である。

「明日の北海道はどのような□□ですか？」

それでは、これならばどうだろうか？

正解は天気である。天候と気候はあてはまらない。なぜなら明日と限定されているからだ。天気・天候・気候という言葉は、どれも特定の地域の気象状態を表す言葉だが、その違いは時間にある。

天気とは数時間から1日の気象状態をいう。「九州地方の10日の天気は、晴れのち曇りでしょう」「9月1日午前9時の東京の天気は、雨、気温25度、風向きは北北西の予想です」などの使い方をする。

天候は天気よりも時間が長くなり、数日から数か月程度の気象状態をいう。「1月下旬の天候は豪雪が心配される」「先月前半の天候は40度近い猛暑日が続いた」などの使い方をする。

気候とは毎年繰り返される平均的な気象状態をいう。「北海道は梅雨のない気候だ」「瀬戸内地方の気候の特色は、雨が少なく、晴れの日が多いことだ」などの使い方をする。

21

東北と 北東の違い

「東西南北」という四字熟語はあるが、「南北東西」とはいわない。

東北と北東、西南と南西、何が違うのだろうか？ 気にならないように気になる違いだが、その違いの根拠は明解だ。簡潔にいうと、東西を優先するのは日本の文化、南北を優先するのは欧米の文化であり、国際基準ということになる。

日本という国号や国旗の日の丸が示すように、日本人は古来より太陽への思い入れが非常に強い。そのため、日の出や日の入りの方角すなわち東西の方角を重視し、東北地方や東南アジア、西南戦争、さらに早稲田大学の校歌が「都の西北〜♪」とあるように、日本では東西を先にして言い表してきた。

しかし、テレビの天気予報を聞いていると、「南西の風」とか「台風は進路を北東へ向け…」など南北を先にした表現が使われている。これは明治以降、気象科学の分野では欧米の影響を大きく受けてきたためだ。日本に輸入された気象観測の機器や文献はすべて英語、技師もイギリス人、「north-west」の表記はそのまま「北西」と直訳され、日本でも方位を表す場合は南北を先にして表現されるようになった。

さらに、気象情報は国際間で共有し管理する必要から、方位に関する用語は南北を優先する欧米のスタイルが国際基準となり、現在ではこの表現方法が国際社会で定着している。